

大綱化以降の一般教育—教養教育／共通教育の変化について

1. 卒業単位数に占める教養教育の単位数の比率の推移（国立大学のみ）

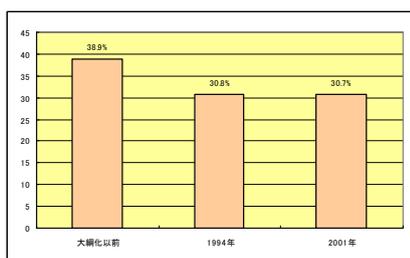
出典 杉谷祐美子、2005、「日本における学士学位プログラムの現況」

（国立大学協会教養教育に関する特別委員会（1995）、大学評価・学位授与機構（2001）より作成）

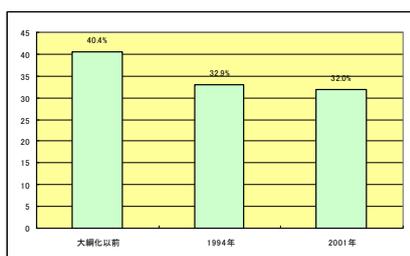
※大綱化以前の大学設置基準上の比率

（一般教育科目 36 単位＋外国語科目 8 単位＋保健体育科目 4 単位）÷124 単位＝38.7%

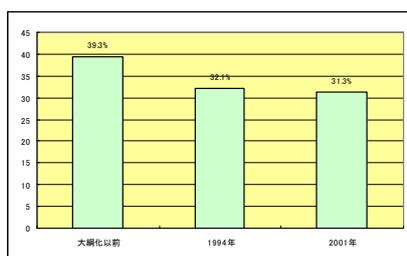
① 全体



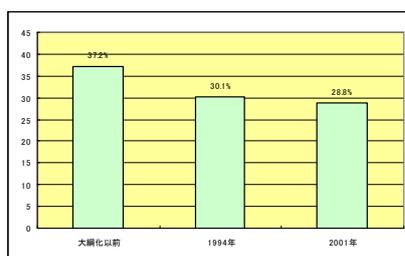
② 人文



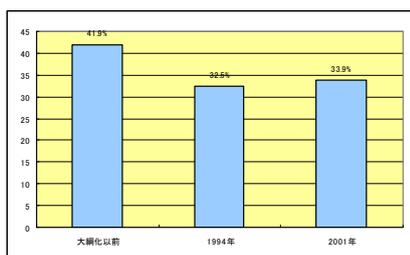
③ 社会



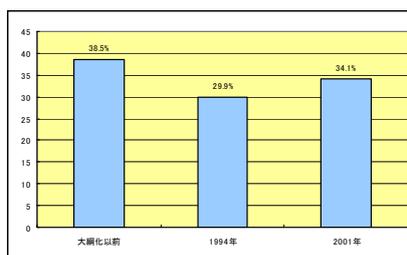
④ 教育



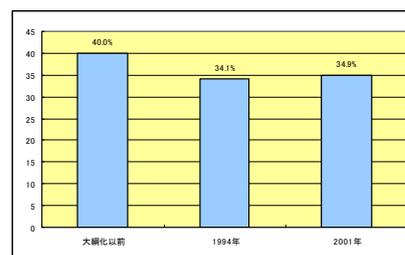
⑤ 理学



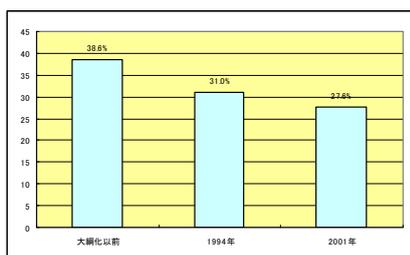
⑥ 工学



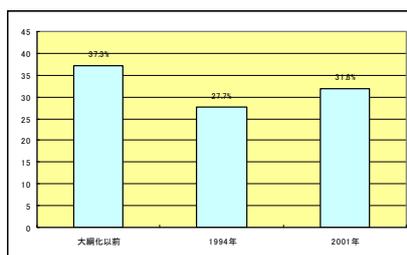
⑦ 農学



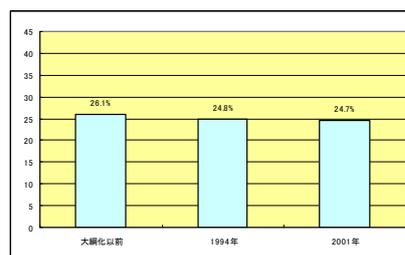
⑧ 医療



⑨ 学際その他



⑩ 医療（6年制）



2. 教養教育の具体的な内容（国立大学のみ）

出典 大学評価・学位授与機構、2001、「国立大学における教養教育の取組みの現状－実情調査報告書」

※ オリジナルの集計結果では、「組み込んでいる」と「組み込んでおり、特に重点を置いている」とを別個に記載しているが、本表では、いったん両者を合計して「組み込んでいる」とした上で、その内数として、「特に重点を置いている」を改めて別個に記載した。

| | 特に組み込んでいない | 組み込んでいる | 特に重点を置いている （「組み込んでいる」の内数） | 組み込む方向で検討中である |
|---------------------------|------------|---------|------------------------------|---------------|
| 1. 高い倫理性を持って判断し行動できる能力の育成 | 2 | 87 | 23 | 5 |
| 2. 高い責任感を持って判断し行動できる能力の育成 | 2 | 82 | 26 | 10 |
| 3. 自らの文化に対する理解の促進 | 1 | 92 | 23 | 1 |
| 4. 世界の多様な文化に対する理解の促進 | | 92 | 38 | 2 |
| 5. 外国語によるコミュニケーション能力の育成 | | 94 | 65 | |
| 6. 外国語の習得を通じた外国文化の理解 | | 94 | 46 | |
| 7. 2つ以上の外国語の習得 | 1 | 93 | 27 | |
| 8. 論理的な文章を書く能力の育成 | 2 | 92 | 28 | 10 |
| 9. プレゼンテーション能力の育成 | 1 | 80 | 36 | 13 |
| 10. 討論能力の育成 | 3 | 80 | 23 | 11 |
| 11. 課題発見能力の育成 | 1 | 83 | 34 | 10 |
| 12. 情報リテラシーの向上 | | 94 | 67 | |
| 13. 科学リテラシーの向上 | 2 | 86 | 16 | 6 |
| 14. 数理リテラシーの向上 | 2 | 84 | 17 | 8 |
| 15. 人文学各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | | 92 | 23 | 2 |
| 16. 社会科学各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | | 92 | 24 | 2 |
| 17. 自然科学各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | 1 | 92 | 35 | 1 |
| 18. 諸科学を超えた学際的な知識の習得 | 1 | 90 | 39 | 3 |
| 19. 芸術鑑賞能力の育成 | 9 | 79 | 12 | 6 |
| 20. 芸術的な表現能力の育成 | 20 | 57 | 5 | 17 |
| 21. 身体運動能力の向上 | 2 | 91 | 39 | 1 |
| 22. 健康な生活を営む能力の向上 | 1 | 93 | 37 | |
| 23. 環境問題に対する理解の促進 | 2 | 92 | 37 | |
| 24. 国際問題に対する理解の促進 | 3 | 89 | 21 | 2 |
| 25. ジェンダー問題に関する理解の促進 | 5 | 76 | 13 | 13 |
| 26. 社会問題に関する理解の促進 | 1 | 92 | 27 | 1 |
| 27. 職業観の育成 | 10 | 65 | 15 | 19 |
| 28. 人間関係能力の向上 | 5 | 82 | 14 | 7 |
| 29. 自己発見の援助 | 6 | 72 | 18 | 16 |
| 30. ボランティア意識の育成 | 12 | 45 | 8 | 37 |
| 31. 大学における学習への適応能力の育成 | 3 | 83 | 31 | 8 |
| 32. 高等学校程度の内容の補習教育の実施 | | 55 | 5 | 18 |

組み込んでいる 70校～ 、80校～ 、90校～ 

組み込んでおり、特に重点を置いている 30校～ 、40校～ 

組み込む方向で検討中である 10校～ 

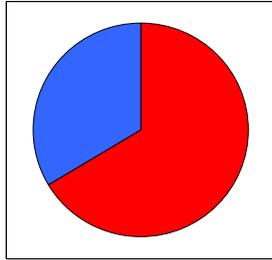
3. 大綱化以降に実施された教養教育に関する諸改革

(91年の大綱化以降、調査実施時期である03年10月時点まで)

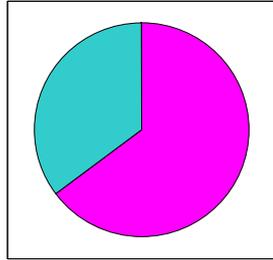
出典：吉田文、2005、「大学の教養教育と教員編成に関する研究」

(吉田、2003、「学士課程カリキュラムの改革の実態に関する調査」による)

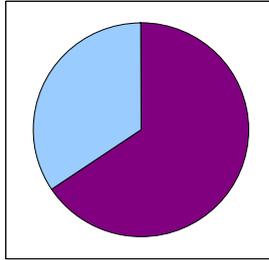
① 国立大学



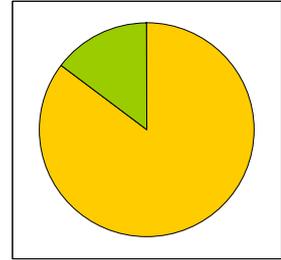
一般教育担当組織の廃止
66.3%



教養教育組織に係わる組織
の設置 64.6%

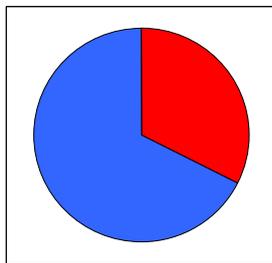


学部・学科の新設・改組
65.5%

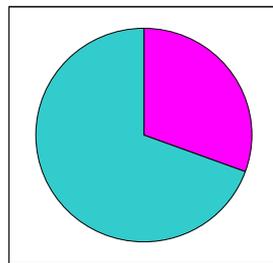


教養教育カリキュラムの
改革 85.3%

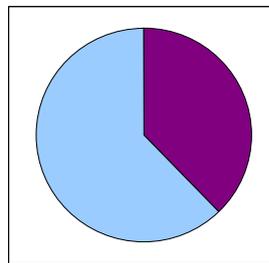
② 公立大学



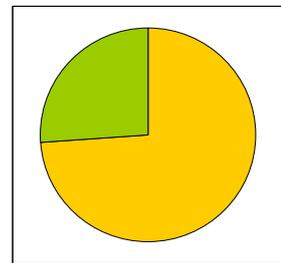
一般教育担当組織の廃止
32.6%



教養教育組織に係わる組織
の設置 30.5%

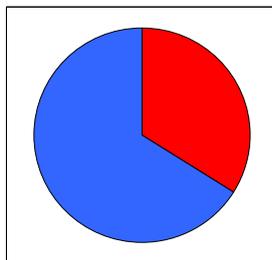


学部・学科の新設・改組
37.9%

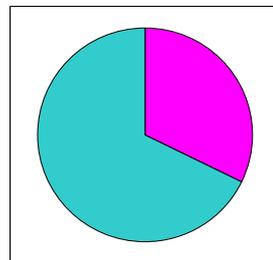


教養教育カリキュラムの
改革 73.8%

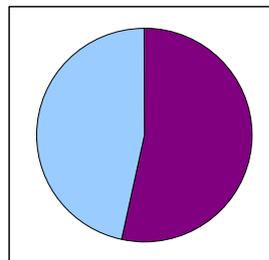
③ 私立大学



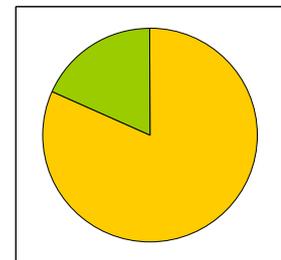
一般教育担当組織の廃止
33.8%



教養教育組織に係わる組織
の設置 32.1%

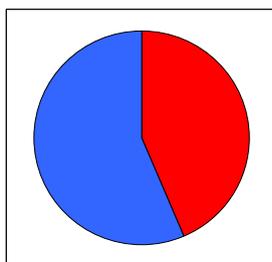


学部・学科の新設・改組
53.3%

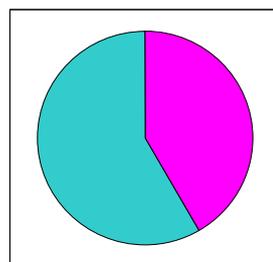


教養教育カリキュラムの
改革 81.6%

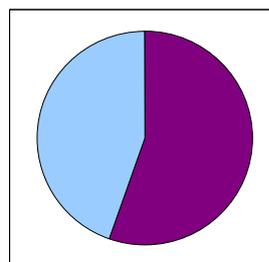
④ 国公立全体



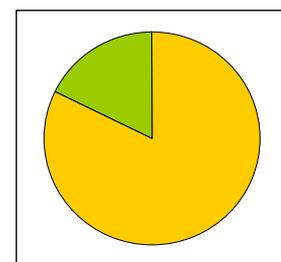
一般教育担当組織の廃止
43.5%



教養教育組織に係わる組織
の設置 41.6%

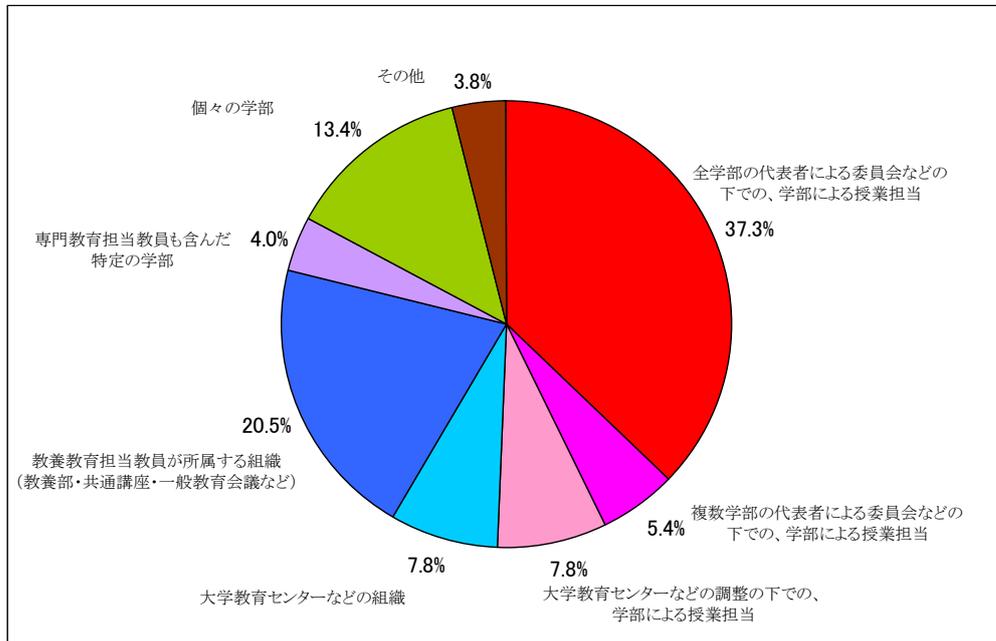


学部・学科の新設・改組
55.4%



教養教育カリキュラムの
改革 82.0%

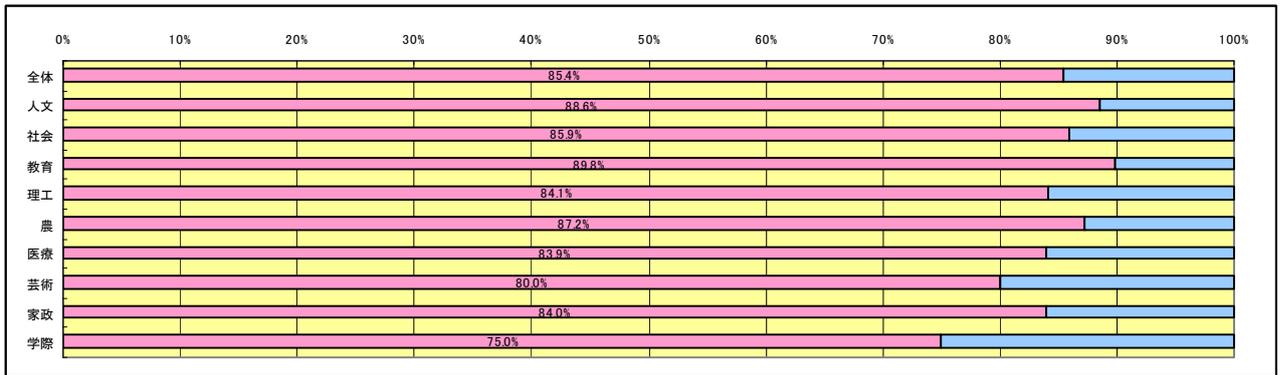
参考 「貴大学において、教養教育を実際に担当する組織は、以下のどれが最も近いですか。」
(国公立合計。出典：吉田、2005)



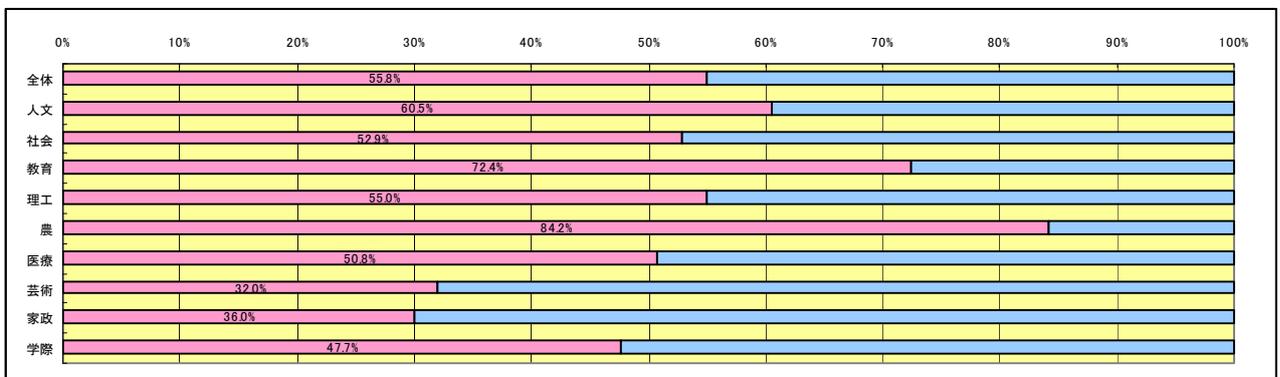
4. 大綱化以降のカリキュラムの変化

出典 杉谷祐美子、2005、「日本における学士学位プログラムの現況」
 (吉田、2003、「学士課程カリキュラムの改革の実態に関する調査」による)

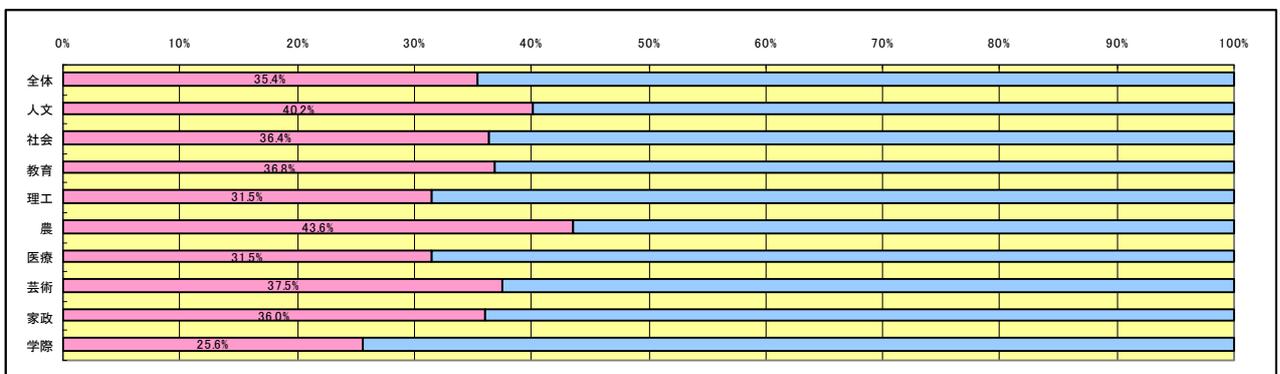
① 教養教育として情報教育や語学教育などのスキルが重視されるようになった



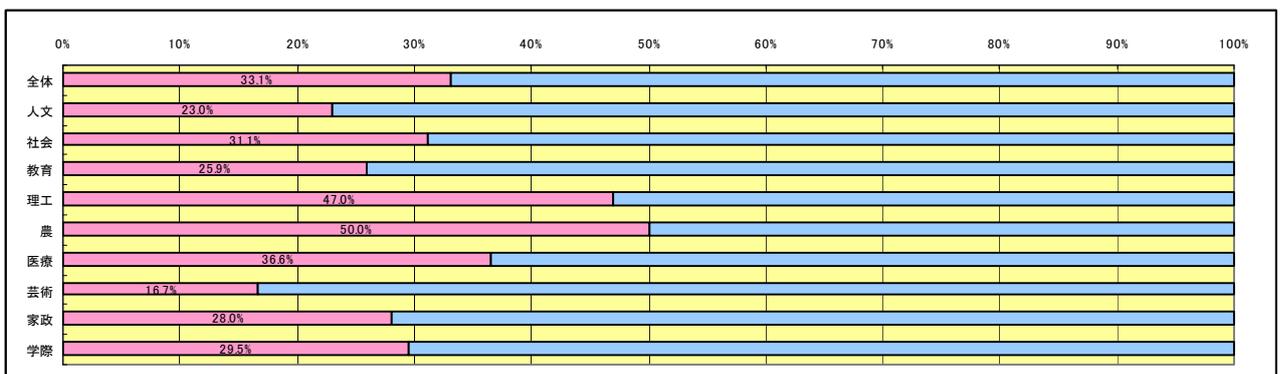
② 教養教育としてテーマ別科目が増大した



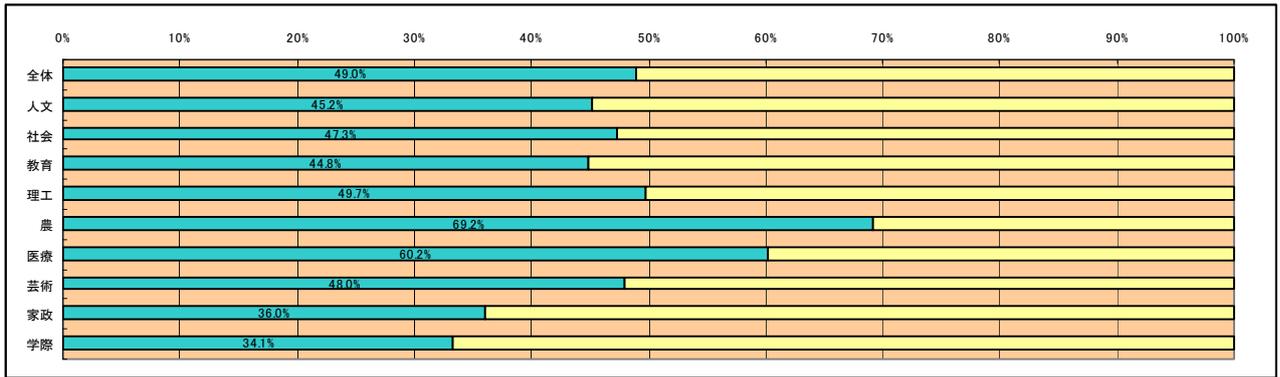
③ 教養教育に関する学生の履修の共通性が減少した



④ 教養教育に占める補修教育や導入教育の比重が増大した

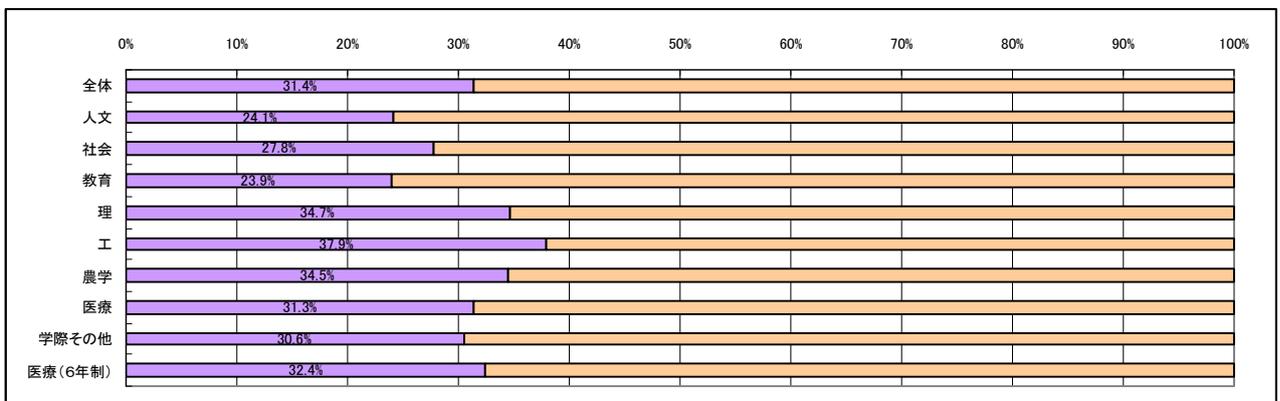


⑤ 教養教育に専門基礎教育が組み込まれるようになった

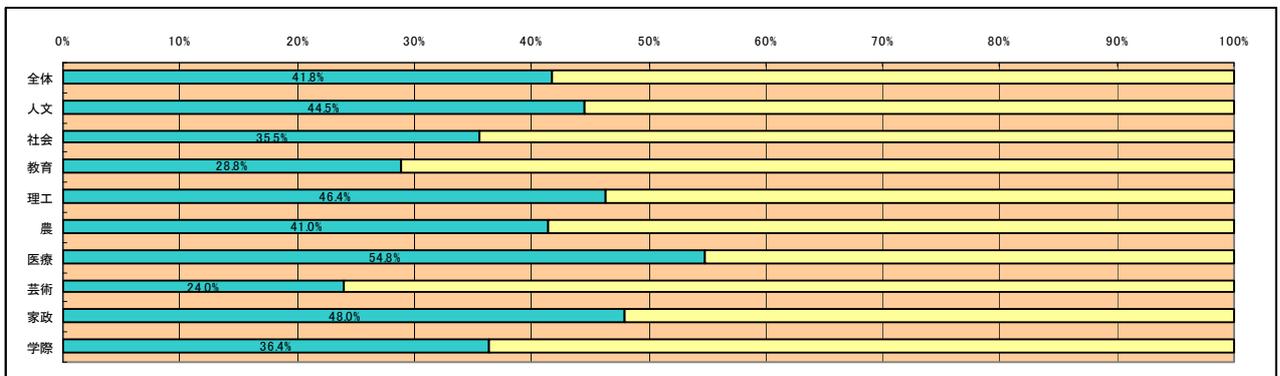


参考 教養教育に占める「教養・専門教育」単位数の比率

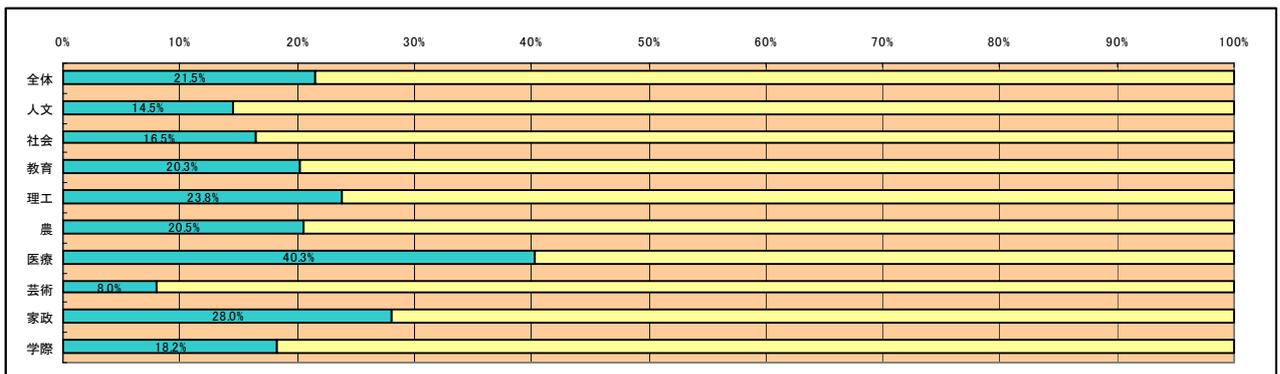
出典 杉谷、2005、(大学評価・学位授与機構、2001、「国立大学における教養教育の取組みの現状—実情調査報告書」による)



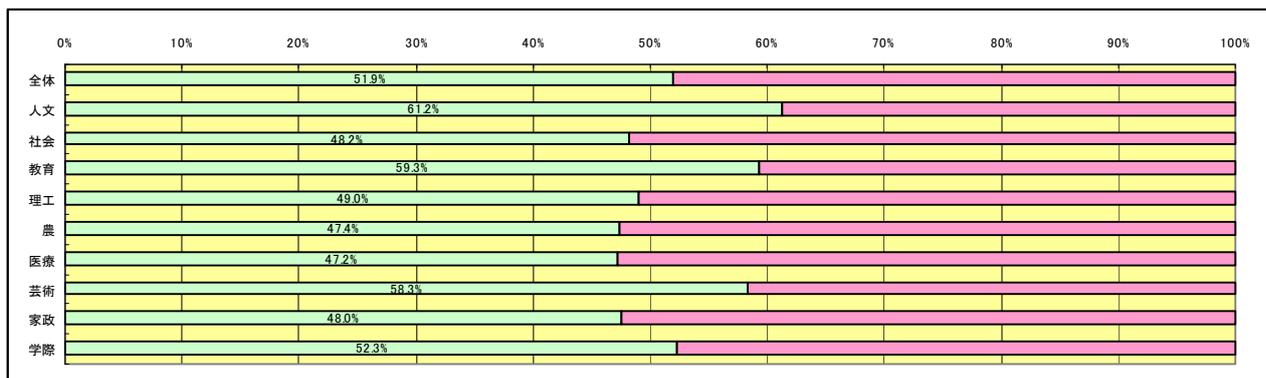
⑥ 教養教育と専門教育との有機的な統合が進んだ



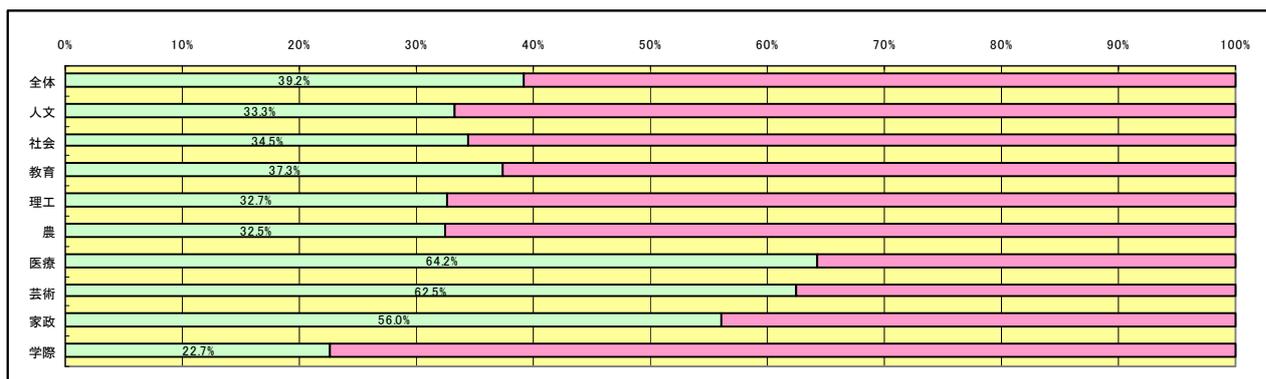
⑦ 教養教育の内容が専門教育に強く規定されるようになった



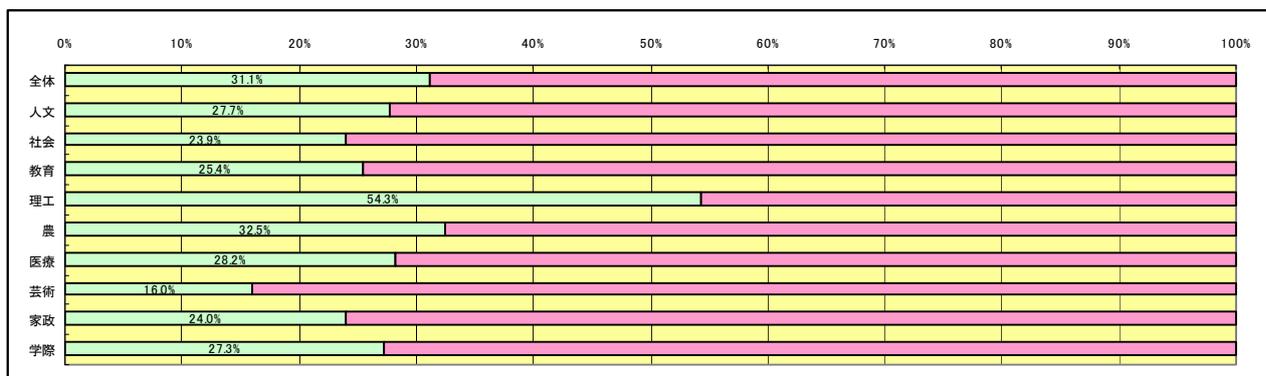
⑧ 専門教育が学際的になった



⑨ 専門教育の内容が高度化した



⑩ 大学院教育を視野に入れて、学士課程カリキュラムを編成するようになった



5. 大綱化以降に生じた問題点

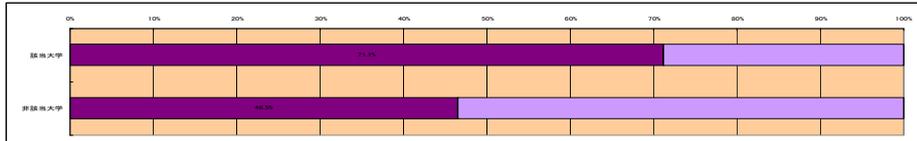
出典：吉田文、2005、「大学の教養教育と教員編成に関する研究」
 (吉田、2003、「学士課程カリキュラムの改革の実態に関する調査」による)

アンケート調査において、「教養教育の担当組織が充分機能しなくなった」という設問に対して、該当する大学(注1)と該当しない大学(注2)との間で見られる違い

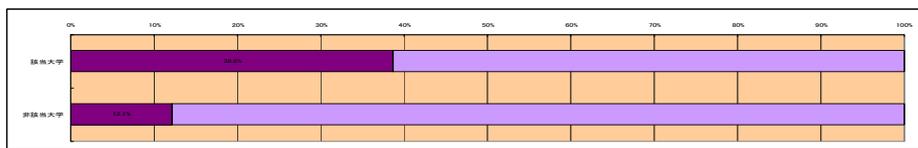
注1 該当する大学：「よくあてはまる」(6.9%)、「ある程度あてはまる」(25.8%)

注2 該当しない大学：「あまりあてはまらない」(47.3%)、「まったくあてはまらない」(20.3%)

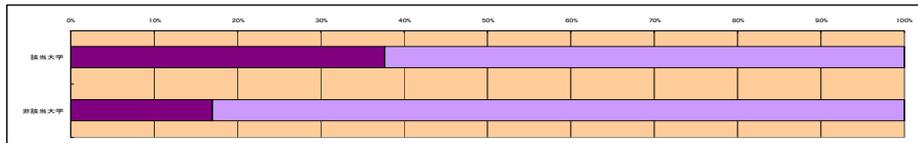
① 教養の履修単位数が減少した



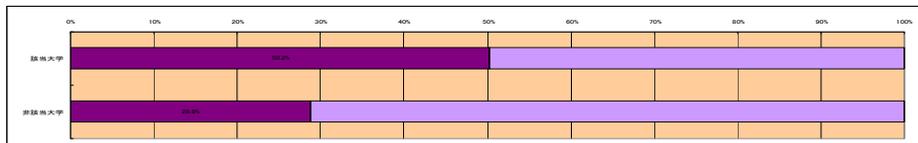
② 教員間に教養軽視の風潮が強まった



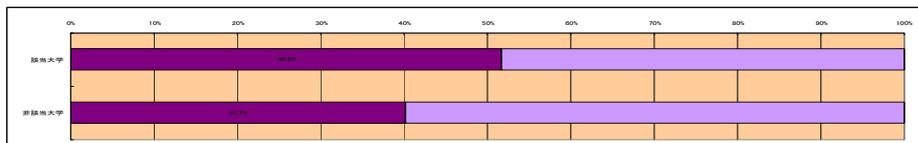
③ 担当の違いによる教員間の差別が残っている



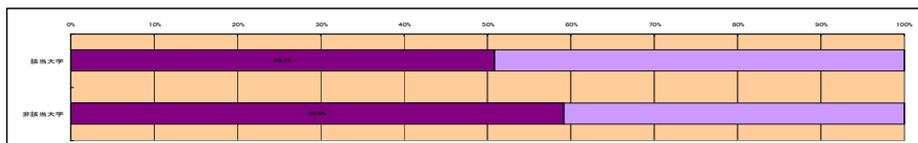
④ 教養の履修の共通性が減少した



⑤ 教養に関する教員の負担が増大した



⑥ 教員間の科目調整が多くなった



⑦ 教養と専門の有機的統合が進んだ

